

挑む大学生の能 本式

内藤さん（左から2人目）の手ほどきを受ける名大宝生会のメンバー＝昭和区滝川町で



名古屋能楽堂で来月25日上演

大舞台CFで費用募る

名古屋能楽堂（中区）で三月二十五日に開かれる「名古屋学生能・狂言の会」に向け、能楽を学ぶ県内の大学生三団体が、二月末までクラウドファンディング（CF）で寄付金を募っている。上演に必要な費用捻出のためで「支援を呼びかけながら能をPRし、伝統芸能に触れてもらおう」と期待す

る。

会は名古屋学生能楽連盟が主催。CFをするのは同連盟のうち、宝生流を学ぶ団体で、名古屋大のサークル「名大宝生会」と愛知教育大、県立大の能楽部。

各団体とも、普段は能の一部を紋付きとはかま姿で舞う「仕舞」と呼ばれる略式を演じてきた。三年前に名大宝生会を創部した代表の四年水江初音さん（ニ）らが今春の卒業を前に、本式の能などでの上演を企画。

名大宝生会は能の装束などで演目の後半を舞う形式「半能」で「加茂」を披露するほか、愛教大は能で「羽衣」、県立大は仕舞に「やし方が付く」「舞囃子」で「松虫」を演じる。

大舞台に向け、装束の費用やプロのはやし方への謝礼などで計八十万円ほどが必要になり、CFで寄付を募ることを決めた。

名大宝生会は月に二回、市出身の宝生流能楽師、内藤飛能さん（四）「さいたま市」の指導を受ける。「加茂」は天女姿の御祖神の優

雅な舞と、足を踏み鳴らして雷鳴を表す別雷神の威勢の良い舞が見どころ。二月上旬に昭和区の能舞台で行われた稽古では、部員が立ち位置や手足の動き、袖の振り方を教わっていた。

高校生の時、能の体験会に参加して魅力を知った水江さんは「神様など人間ではないものになれるのが能

の面白いところ」と話す。

CFサイト「READY FOR（レディーフォ）」「QRコード」で二月末まで、三十万円を目標に募集し、達成後も



寄付は受け付ける。寄付は千円からで、額に応じて缶バッジなどを返礼品として贈る。
（芝野享平）